



令和7年1月1日

通巻237号

発行

東京鋳螺協同組合

<https://www.e-neji.org/>

東京都墨田区押上1-32-12

TEL. 03(3613)4141

ホームページでも
ご覧いただけます



『瀬戸内の午後』

撮影場所

しまなみ海道因島

撮影日

2024年5月14日

撮影者

墨水支部
株式会社アヅマネジ
篠崎晴己氏

目次

年頭所感	理事長 新保良孝	2
新年賀詞交歓会について		2
第六十五回通常総会について		3
干支を迎えて		3
次の十二年後に向けて	今西崇之	4
干支を迎えて	村野 健	4
いつの間にかもう還暦？	竹内 晋	5
委員会だより		5
福利厚生委員会		5
流通経営委員会		7
広報委員会		8
表紙のことば	(株)アヅマネジ 篠崎晴己	8
支部だより		9
令和六年度研修旅行のご報告	昌栄支部	9
台京鋳螺会韓国視察旅行2024秋	台京支部	10
墨水会未開の地への旅		12
↳ 淡路・徳島渦潮旅行	墨水支部	12
昌栄青和会だより		14
報告「NOST交流会」	平渡芳嗣	14
泰鋳会だより		17
泰鋳会 旅行記	大西範彦	17
組合の会議から		18
訃報		18
東鋳ゴルフ会報告		18
シリーズ「私の逸品」(株)京葉ネジ	木村 勉	19
情報室	(株)佐竹製作所 尾方謙一	20

年頭所感



理事長 新保良孝



明けましておめでとうございます。
2025年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2024年、中東、ウクライナなどの軍事紛争は収束するどころか、より複雑化し、リスクが高まっています。また、アメリカの大統領選挙は共和党のトランプ氏の勝利となりました。日本では衆議院の解散総選挙で与党の自民党、公明党の議席数が過半数割れとなり、不安定な政権運営を余儀なくされています。中国経済もより不透明感がましているようです。これほど不確定要素が多く、どんな一年になるか想像するのが難しい年始めもあまり記憶にありません。しかし、専門家と称する方々の「為替相場」や「株式市場」の予測ですら難しいのですから、私一人の想定などたいして意味を持ちません。ここ数年の出来事を顧みても、「コロナ禍」が最初あれほどの事態となることを予測できた方は、いなかったように思いますし、2022年末にサービスを開始した「ChatGPT」をはじめとする生成AIがこれほどのスピードで普及することを、想定していた方も少ないのではないのでしょうか。

しかし、予想や予測は難しくとも、早く「情報」を集めることはできます。より早く情報を収集して、そのつど判断し対応していくのが大事だと思っています。ただ、相変わらずSNSをはじめとするネット上では、フェイクニュースが多いのが実情ですし、新聞やテレビといった既存のメディアも、残念ながら同様感じています。これからは、情報をきちんと見極めて取捨選択する必要がありますし、そのためのスキルを磨いていく必要があると思います。

話は少し脱線しますが、今回「年頭所感」を寄稿するにあたって、試しに生成AIで文章を作成してみました。いくつかのキーワードを指定して「年頭所感」の作成を依頼すると、4、5秒で教科書のような文章ができあがりました。さすがに修正が必要な部分もいくつかありましたが、条件やキーワードを追加すれば、十分に使用可能だと感じた次第です。来年は生成AIに寄稿文の作成を任せているかもしれません。というのはもちろん冗談ですが、大企業では、仕事で生成AIを使う企業が増えているようです。中小企業ではまだ少数かもしれませんが、生成AIを業務に使用する可能性を常に視野に入れておくべきだと思います。

今年も組合の各行事を、創意工夫しながら執り行なって参りたいと思っておりますので、皆様のご積極的な参加をお待ちしております。それでは、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

新年賀詞交歓会案内

新年の賀詞交歓会を左記の通り開催いたします。

組合員が一同に会しての気軽なパーティーですので、お誘い合わせの上ご参加いただけますようお願い致します。

当日は、令和七年度干支（巳年）に当たられる方々に、組合より記念品をお送りいたします。

期 日 令和七年一月八日（水）
時 間 午後五時～六時三十分まで
場 所 第一ホテル両国
会 費 三〇〇〇円

第六十五回 通常総会案内

組合では、令和六年度の事業報告及び決算報告、令和七年度の事業計画案、収支予算案のご承認をいただくため、このたびは墨田支部のご担当により別記の通り「東京スカイツリー イーストタワー 貸し会議室」において、第六十五回通常総会を開催いたします。組合員の皆様には多数のご出席を賜り、盛会かつ有意義に開催されますようご協力をお願い申し上げます。

なお、詳細ご案内は一月中旬以降に組合より発送いたしますが、委任状も兼ねておりますので、ご欠席の場合も必ずご返送ください。

開催日 令和七年二月十八日(火)

場所 東京スカイツリー イーストタワー

貸し会議室

議案

- 一号議案 令和六年度 事業報告承認の件
- 二号議案 令和六年度 決算報告承認の件
- 三号議案 令和六年度 剰余金処分案承認の件
- 四号議案 令和七年度 事業計画案承認の件
- 五号議案 令和七年度 収支予算案・経費の賦課金額及びその徴収方法決定の件
- 六号議案 令和七年度 役員報酬決定の件
- 七号議案 令和七年度 組合借入金最高限度額決定の件
- 八号議案 令和七年度 任期満了に伴う理事・監事改選の件

● 第一ホテル両国

〒130-0015
東京都墨田区横網 1-6-1



● 東京スカイツリーイーストタワー貸し会議室

〒131-0045
東京都墨田区押上 1-1-2
東京スカイツリーイーストタワー 12階



干支を迎えて

次の十二年後に向けて

昌栄支部 有限会社 今西工業所

今 西 崇 之

(昭和五二年六月生)



私の記憶が正しければ、この『東鉦』に初めて寄稿したのは、二十二年前の「昌栄青年会だより」だったと思います。おそらく、間違いないかと。

元来、この手のコトは苦手分野なのですが、今回で十九本目(自分調べ)となると、そろそろ広報委員会に立候補をしたほうがいいのでは？ とすら考えてしまいます。

さて、今回は「干支を迎えて」ということで、十二年前の二〇一三年を振り返ってみようと思います。その年の世相を反映する、流行語の年間大賞には、二〇二〇年の夏季五輪の東京誘致、成功のキーワードにもなった『お・も・て・な・し』、NHK連続テレビ小説では「あまちゃん」が放送されて『じぇいじぇい』、TBS日曜劇場では「半沢直樹」が放送され『倍返し』が選ばれました。この頃の年間大賞は、まだテレビからの影響を色濃く感じられますね。

また当時は、まだまだ従来型の携帯電話が主流派で、世帯普及率で見るとスマートフォン(以下、スマホ)が若い世代を中心に勢いよく台数を伸ばしており、ここから数年で従来型を抜いていくことになっていきました。

確かに、このコロナ禍前後で「動画配信サービス」というサービスなどの飛躍的な伸びは、在宅を強いられていた影響だけではなく、スマホの普及が後押しをしているように感じます。当時の私も、好きな映画はDVDを、聞きたい音楽はCDを購入していたこと、今でも、

しつかりと覚えております。

スマホの普及は、我々の生活様式にも様々な変化を与えました。誰もが街中で簡単に動画や写真を撮り、SNSを通じての「情報発信者」になりました。インターネット上には「正しい情報」と「間違えた情報」が乱立しており、その取捨選択は我々個人に委ねられるようになり、正しい情報を見抜く力も身につけなければ生き抜くことも難しい情報世界を作り上げました。

たかだかこの十二年で、スマホというアイテムを介し、かなり様変わりをした世の中を生きていく中で、次の十二年後、私が還暦を迎える時に、しつかり間違わない生活を送れているのか、取り残されることはないのかと、一抹の不安を覚えております。

情報社会を生き抜く。その為にも、やはり「体が資本」です。体調管理も怠らずに心身ともに健康で日々を過ごしていければと思います。このコロナ禍で運動不足を感じている最近。この四度目の干支を迎えて再度、生活習慣を見直そうと思います。やるなら、そう『今でしょ!』：ちなみに、これも二〇一三年の流行語年間大賞の一つでした。

干支を迎えて

城南支部 有限会社 村野ねじ工業所

村 野 健

(昭和四十年十月生)

今年はい巳年です。

3パーセントの消費税が導入された巳年の平成元年から36年が過ぎました。その後、長い不況の中で平成25年の巳年には安倍政権が打ち出したアベノミクスという蛇のように柔軟な金融政策、大胆な財政出動、そして成長戦略という3本の矢でデフレからの脱却を目指し経済の変革をおおいに期待したのを記憶しています。

それから12年後の巳年が到来しました。今年はいろいろな意味でい

ンパクトが強い、日本経済、我が業界にとっても飛躍の年を望み、期待をしています。

私、個人的には気持ちだけでも、組合活動に力を注いでいくつもりです。

今年1年、皆さんと顔を合わせていろいろ話せることを楽しみにしています。

いつの間にかもう還暦？

台京支部 有限会社 竹内商事

竹内 晋

(昭和四十年三月生)



あけましておめでとうございます。台京鉾会の竹内です。

去年の賀詞交歓会の時に昭和三十九年生まれの方が年男という事でお祝いされていましたが、私は本来学年で考えれば同じだったのですが早生まれという事で、一年遅れてでの還暦お祝いという事になりました。

既に同級生たちは還暦という事で各自のSNSに赤いちゃんちゃんこを着た写真をあげています。

病氣も無く健康にと行きたいところが二つ病氣が有ります。

一つは完全では無いのですが二型糖尿病という事で通院しています。代々我が家は祖母から糖尿病になつていたので病院でもあなたは遺伝なので仕方が無いですよと言われていきます。薬漬け、病院漬けからなかなか開放はしてくれません。もう一つは金欠病です。自分だけではなく俺も俺もという方もいらつしやると思いますが、この年になつてからの金欠病はとてつらく、早く治らないかなあと毎日思っています。

去年は台京鉾会で念願の韓国研修旅行も行けて会長としての解決目標も大きな山を越せました。また次回もどこかに行けるように考え

中です。鉾会自体の高齢化が目立ち台京鉾会でも若い人材の参加が余り多くないので今後に向かって考えて行かなくてはいけない課題です。

改めて巳年というのは①知的で洞察力が有る。②カリスマ性が有る。③自尊心が強い。④探求心が旺盛。で大御所の芸人さんやタレントさんが沢山いるそうです。自分もそれにあやかつて良い年に出来たらと考えています。二人目の孫も年末か年明けかに生まれるようなのでおじいさんはまだまだ頑張らないかと考える毎日です。

鉾会自体もただ会って話をするだけではなく仕事上でもつとうまくつながりを持って業界自体を持ち上げていきたいと考えていますので皆様ご協力の程宜しくお願いいたします。

委員会だより

福利厚生委員会

4年ぶりの政権奪還

福利厚生委員長 (有) 齋藤鉾 齋藤 隆 司

10月26日、メジャーリーグ大谷翔平率いるロサンゼルス・ドジャースが4年ぶりのワールドシリーズ制覇をかけて熱戦をくり広げ、4年ぶりの日本衆議院選挙の期日前投票日週末などの忙しい中、白熱した東京鉾協同組合の第17回ボウリング大会が開催されました。

過去3年は常勝軍団の草加ネジ様率いる墨田支部が圧倒的な成績で3連覇を果たしており、前人未到の4連覇をかけて大会に臨まれました。





齋藤委員長の挨拶



新保理事長による始球式

運営サイドの福利厚生委員会と事務局サイドでも、4連覇を阻むべくではないのですが、毎年同じのルールを見直し、ハンデの点数の引き上げなどのテコ入れをさせていただき全支部に優勝の可能性が有るように努めてまいりました。

ボウリング当日は、大会1時間前にボウリング会場現地入りをして、事前練習をチームでしていた支部なども複数あり、参加者の高いモチベーションが垣間見えて大変うれしいうれしい限りでした。来年はわたくし齋藤が所属する城南支部も優勝を目指すべく、事前練習をしてから大会に臨むことをここに誓います(笑)

さて大会のほうはといいますと、個人成績トップ5の選手が2ゲーム合計350点以上(1ゲーム175点以上)というハイレベルな大会となりました。

チーム戦の成績はといいますと、チーム合計ポイント1380点という素晴らしい得点で4年ぶりに港支部の優勝となりました。2位はチーム合計1272点で千神螺支部、3位は1168点で墨田支部となりました。来年も優勝ボーダーが1300点超えのハイレベルな戦いになるものと期待いたします。

人やモノや出来事は4年周期で潮目に変化するものなのかも、と思うことを最近よく感じる事象を多く見受けれます。今年の潮目と情勢が変わった衆議院選挙も4年に一度の変化かと思えます。先ほど申し上げたドジャースのワールドシリーズ優勝は4年ぶり。

私はサッカーを学生時代から長年やっておった身ですが、サッカー界でも4年に一度潮目が変わることがよくあると思っています。



支部優勝 港支部の皆さん



個人優勝
千神螺支部
榎大里の関根さん

日本サッカーのJリーグでは強いチームが2連覇、3連覇ということはザラにあるものの4連覇、4年間維持するというチームはJリーグの歴史上1チームも一度も出てきていません。理由としては、他チームの研究や対策・戦力補強などの包囲網などが3年間でちょうど確立されていく中で、優勝チームを対策で打ち負かす新興勢力が必ず出てくるということが挙げられます。

経済界でも政財界でもスポーツ界でも、大きく言えば人間界では、絶対的な力がある存在が出てくると、その対抗勢力が努力と知恵で成長し打ち負かし淘汰をしていく。このサイクルが4年なのかもしれません。

常に変化をしている存在が勝利を獲得していくものなのだと、つくづく感じます。私たち鉦螺流通商社に属するものとして、毎年の変化に対応しながら、変化を楽しみ、市場・市況の変化を対策しながら荒波を超えていければ、精進できればと思った10月秋の夜でした。来年も東京鉦螺協同組合ボウリング大会の多くの方々のご参加お待ちしております。

流通経営委員会

流通経営委員長 (株) 銚定本店 金 枝 総 吉



◇ねじ流通商工懇談会

開催日

10月11日(金)、
午後6時～8時

10月11日(金)、上野精養軒にて、東部ファスナー協同組合との「ねじ流通商工懇談会」を開催いたしました。この懇談会は毎年10月頃に開催され、東銚と東部ファスナーが交互に幹事を務める形で運営され、今年は東部ファスナーが幹事を務めてくださいました。

コロナ禍の影響で一時中断を余儀なくされていたこの懇談会ですが、昨年から再開され、今年は参加者同士の交流を深めることを主な目的として懇親会をメインに開催しました。

途中には事前に実施した「経営状況に関するアンケート」結果の発表も行われました。これにより商側・工側双方の現状や課題について活発な意見交換が行われ、終始和やかな雰囲気の中、有意義な時間を過ごすことができました。



新保理事長 挨拶



東部ファスナー協同組合
望月紀人 理事長 挨拶



記念撮影

◇ 第 2 回セミナー開催報告

開催日 11月5日(火)、午後6時30分～8時

講師 宗村 貴広 氏(みずほ銀行押上支店個人担当部長)
 演題 第一部…従業員エンゲージメント向上にむけて
 第二部…人生100年時代!

資産運用・資産形成の必要性と新 N I S A の活用

11月5日に、株式会社みずほ銀行より宗村氏を講師にお迎えし、「資産運用・資産形成」をテーマとした講演会を開催しました。

講演では、新 N I S A の活用法をはじめ、さまざまな資産形成プランの選択肢や、それぞれのメリットとデメリットについて具体的にご説明をいただきました。昨今、インフレの進行により現金をただ保有するだけでは価値が目減りしてしまうことが懸念されています。そのため、リスクを適切に管理しつつ、手元資産を効率的に運用していくことが、今後ますます重要なテーマとなっています。

さらに、金融教育の重要性が社会全体で叫ばれるようになっていの中で、従業員の資産形成支援が企業にとって重要な取り組みになるのではないかと指摘もありました。個人の資産管理の手法について理解を深めるとともに、企業がどのように従業員の資産形成を



講師の宗村貴広氏

サポートして
いけるか、今
後の課題とし
て考えさせら
れる有意義な
機会となりました。



広報委員会からのお知らせ

「東鉦プラス」にご寄稿ください

広報委員会では、新たな取り組みとして

「東鉦プラス」

を Web サイトに開設いたします。

広報誌「東鉦」は年 3 回の発行ですが、「東鉦プラス」はご寄稿いただいた記事を随時掲載してまいります。

例えば、

- ▽めずらしい「ねじ」の紹介
- ▽ちよつと風変わりな趣味について
- ▽味や香りなどをテーマにした随想
- ▽自社の福利厚生制度や取り組み自慢
- ▽我が社の○○○、私の○○○
- ▽などなど

各支部の広報委員や事務局あてに、奮ってご応募いただけたらと思います。

事務局の送付先アドレスはこちらです。

info@e-neiji.org

どうぞよろしくお願いいたします。



↑↑↑
Webサイトでも
ご覧いただけます

表紙のことば

5月のさわやかな季節。ぼーっとしていたい時間でした。

墨水支部 株式会社アツマネジ 篠崎 晴己

支部だより

令和六年度研修旅行のご報告

昌栄支部

(有) トキザキファスナー 時 崎 雅 広



私たち昌栄支部では、十月十九日～二十日に総勢十六名で研修旅行に行つて参りました。

今回の行先は、新潟県湯沢町です。湯沢町は新潟県の南端に位置し、日本百名山の谷川岳や苗場山などに囲まれた自然豊かな山あいの町です。冬には三メートル近い雪に覆われる豪雪地帯で、川端康成の小説「雪国」の舞台となったところです。町内にはスキー場も多く、ウインタースポーツのイメージが強い地域ですが、山がわずかに色づく紅葉の季節に訪れるのも非常に良かったです。

初日は最高気温が三十度を超える季節外れの暑い日でした。十二時に上野駅集合で、新幹線の出発まで昼食をとって待つことになりました。予約をしておいた博多もつ鍋屋さんに入り、軽いミーティングの後の食事でしたが、そこは昌栄支部スタイルというべき飲み放題プランになっており、エンジン全開での出発となりました。

上越新幹線に乗りし、およそ一時間でホテル最寄りの越後湯沢駅に到着です。ホテルまでは送迎バスに来てもらいあつという間の道のりでした。夕食までは予定はなく温泉に入ることに。温泉のイメージがなかった湯沢町でしたが、開湯九百年以上の歴史がある温泉地で、ホテルには谷川連峰を見渡せる露天風呂など、趣向を凝らしたたくさんのお風呂を楽しむことができました。脱衣所で下着が行方不明? になってしまった方がいましたが、今となっては笑い話でしょうか。

夕食は新潟の食材を活かした豪華なものでした。海の幸あり山の幸ありと秋の味覚を堪能できました。お酒も進み大変盛り上がった宴会となりました。夕食の後は、部屋で二次会をされたり、マッサージをされたりと各々が自由に過ごされたみたいです。

二日目は初日と打って変わって雨模様の肌寒い日となりました。最低気温が十度を下回るほどでした。越後湯沢駅構内には人気の観光スポットがあり立ち寄ることに。お土産店や飲食店がズラリと集まっており、日本酒のギャラリーや入浴施設まであるところです。五百円で日本酒の試飲ができるお店には行列ができていました。皆さんお土産をたくさん買い込み帰宅の途に。正午ぐらいに上野駅に到着し解散となりました。

この二日間は大きな問題もなく、昌栄支部の親睦がさらに深まった旅行になったと思います。最近はやインバウンドの増加などで旅行の予約が大変取りづらかったと聞いております。この旅行を計画され、ご苦労された幹事の方には感謝申し上げます。



台京鉦螺会韓国視察旅行 2024 秋

— 台京支部 —

(有) 竹内商事 竹内 晋

東鉦協の皆様お世話になっております。台京鉦螺会の(有)竹内商事・竹内です。

今回十月三日から十月五日の日程で台京鉦螺会メンバー八名で韓国のネジメーカー「ソウルメタル」さんに視察に行ってきました。

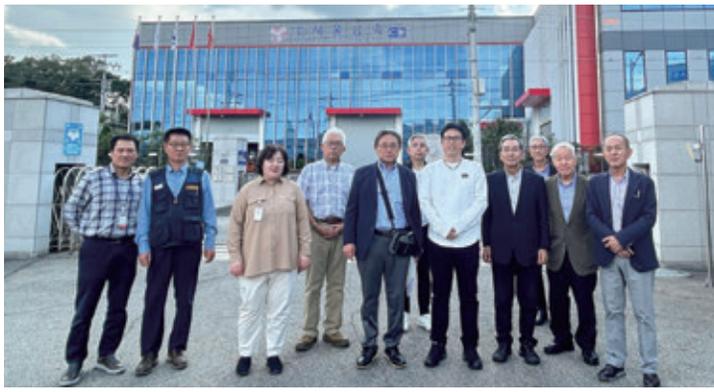
このソウルメタルさんは台京会の東京鉦兼さんがお付き合いされている所で場所的には三十八度線にほど近い仁川市ガンファという所に在り工場の規模も大きく今後も新しい建屋を建設する予定で羨ましい

ほど成長著しいといった会社でした。日本の会社にはトヨタ、本田、三菱、スズキ等の日本の自動車会社、外国向けにはメルセデスベンツ、BMW、フォルクスワーゲン、ボルボ等に出荷されています。韓国国内向けはLG、サムソン、ヒュンダイ等メジャーな所と契約されているそうです。

ワールドネットワーク的には韓国を中心としてヨーロッパはスペイン、ルーマニア、ハンガリーにも工場を持っており現地の会社や工場向けに出荷されているそうです。

アジア向けには中国が一番大きく、ベトナム、マレーシア、フィリピン、インドに各営業所、工場等持っているようです。

その他の用途としては電子機器用の小型ネジ、φ0・8〜φ60mm



迄の精密ネジも製造、販売されているそうで機械の稼働は見られなかったのですが携帯電話に使用するかなり小型のネジを製造するラインも持っていました。一部硬度を増すための焼き入れ装置もありましたが全部で三台という事で殆どの物は協力会社での加工という事でした。

その他検査、梱包、出荷ラインが有る棟の他、検査棟には顧客から来る情報を基に検査機器を設定し、硬度や貫通力、回転の仕方を計測する装置も設置されており客先からの情報を基に検査対応することが可能です。しかし検査機器はスタンレーの機械しか無い為客先と同じ検査機と言われるとダメの様でした。検査機器のある部屋にはその他貫通力の実験機や顧客からのテスト治具等も保管されています。

建屋的には製造棟、事務所、検査室、完成品検査梱包等出来る棟が一棟、工作機械、焼き入れ機等有る製造棟に分れており、近々の受注拡大が予定されているという事で、隣の土地に新たに工場を増築すると言う事でまだまだ発展するという事でした。

台京鉦螺会として実際に取引できるかはネジの種類や用途で考える必要が有るとやはり海外からになるので輸送の時間と種類、関税の問題等が有り直ぐにはなかなか取引には至らないかもしれませんが今後製品の種類や取引数量、出荷向け地等考えて条件的に合う所があれば取引しようとの事ですので、ご要望有れば取り次ぎます。





その後は準備していただいた料理店で両社でカンパイから始まり楽しく食事をさせていただきました。

二日以降は仕事以外でソウル市内を見て回ったり旧大統領の執務室や住居として使用されていた青瓦台を見て回り、昔の大統領の家族による話等もガイドさんより聞かせていただきました。しかしながら青瓦台の内部は広大な土地に何件もの建屋が有り、全ては山城のように急な坂道が多い土地に作られており回るにあたって今の季節だとまだ暑く、汗だけで息はあはあになってしまいます。今後行く方がいらっしゃいましたら事前に体力作りが必要かもしれません。

その日の夕食は普通の焼肉ではなく、いつもの薄い肉ではなく、厚いステーキのような韓牛を頂き、ものすごく美味しく、結構な量を追加で注文し、お酒的にもビール、マッコリ、焼酎とお酒が好きなメンバーも食べるにしろ飲むにしろ満足いく食事でした。

早くも三日目、撤収の日です。前日から荷造りを始めて最終日には夕方の飛行機に乗るまで自由時間という事で、我々は余り訪れる人がいない戦争博物館に行ってきました。内部は北朝鮮との戦い、三十八度線での攻防等がメインの一階での展示、地下には古代からの戦いから豊臣秀吉の朝鮮出兵も絵画や展示品で詳しく説明されており、説明員が付いて実際に話ながら日本との事を説明していました。小学生から高校生と思われる人たちも見学に来ていて、小学生は展示物を見ながらレポート作製や写生を行っていました。この感じはロンドンにある軍事博物館の見学と同じような気がします。

展示品には実際の武器、車両、航空機、穴だらけの哨戒艇等が館内、館外に展示されており、本物を見る良い機会になりました。思った程日本との戦争問題は多く展示されておらず、ベトナム戦争での韓国軍の蛮行についても話はされていませんでした。

やはり戦争に関しては言いたいところ、隠したいところ色々あると思うので沢山展示は有りますが、話したくない所はそれなりなのかという感じでした。

とにかく訪韓の予定がある方にはお買い物やアイドル以外にも歴史のページに触れられる良い所と思います。

その後の昼食にはカンジャンケジャンというワタリガニ醤油漬けを頂き、卵のついた蟹肉をチューチューしたり甲羅の部分にご飯を入れて海苔に巻いて食べる美味しい物を食べました。皆さん知らない方は半分こわごわでしたが、店に有った日本酒に似たお酒を飲みながら食べると美味しいという話でしたのでチャンスのある方はチャレンジしてみてください。

あと、今回はカジノ構想の市場調査？ と言うことで、規模的にはアメリカのカジノと比較するとかかなり小規模になりますがカジノにも行ってみました。入場時には各自の個人情報登録する必要が有り若干時間がかかりますが、マシンやテーブルで使用できるパウチャーが二種類初回登録のサービスとして付いてくるので、数回であればそれでプレイすることが可能です。今の流行りとしてスロットは殆どがモニター





使ったマルチゲームのビデオマシンですが一台だけライブリールの機械も有りました。後は巨大なモニターにゲームを映し出し、個人は手前の一人用の機械でプレイするルーレットの機械が有りました。周りには手招きしてプレイの仕方を教えるとかこの機械やれとか付きまとう人もいましたが、怪しいと思いました。皆さん教えてもらって当たった人もいたのでチップを貰っていました。今後日本にカジノが出来るかどうかは解りませんがやはり外国人が普段やれないことが出来るのは魅力あることかも知れません。

今回は現地ねじメーカさんとの会合と設備見学が一番の課題で、その他カジノ体験や戦争博物館における戦争の伝え方等中身の濃い三日間でした。今後韓国に旅行に行かれる方は台京銀螺会メンバーに一言お声掛けください。色々と情報持っています！

今回は三日間詰めに詰めた工程で皆さんもお疲れと思います。今後の第二回、第三回と繋げていきたいと思っておりますので皆様ご協力よろしくお願ひします！

墨水会未開の地への旅 淡路・徳島渦潮旅行

— 墨水支部 —

(有) 金枝商店 金枝 剛史

暑さの収まらない秋の始めの十月十二日・十三日に墨水会旅行会が開催されました。工程は新神戸駅より淡路島へ渡りその後徳島へ上陸という瀬戸内海横断の旅でした。

今回の旅行は事前アンケートで会員皆様の未開の地を調査し一番上陸の少なかった徳島県を目指す旅となりました。

初日の朝、東京駅より新幹線内集合で出発。三連休の始めともあり東京駅内は私の心をくじくほどの人の多さ。三連休初めの旅行客とインバウンドの外国人で弁当買うのもやっと、「多い、多い、と聞いたけどどこまで多いのか。」と思いつつとこのことでホームへたどり着いたが仲間が、誰も見当たらず日にちを間違えたかと不安を覚えましたが出発時刻頃になると合流できて一安心。各自、席でのお楽しみグッズを買い揃え新幹線へ。プルトップを開ける音と共に電車は出発し、そのまま静かに新神戸へと向かいました。

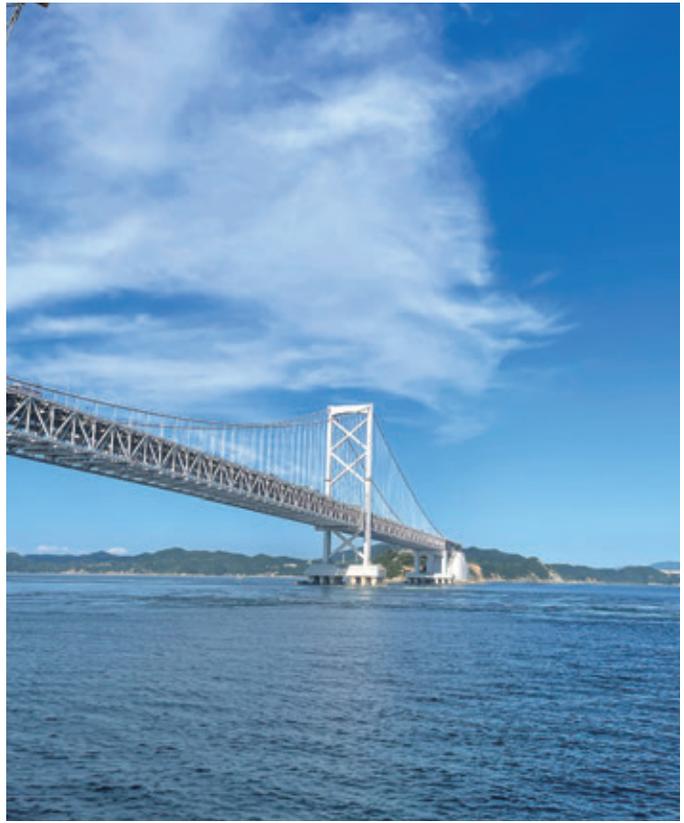
新神戸駅へ到着。そこから貸切バスで淡路島へ出発しました。まず淡路島の酒造元「千年一酒造」見学へ。淡路島では2件しか無い酒造元の一つで年間5万本程の生産で表に出る事は少なく、ほぼ島内で消費されるそうです。社員の方のご案内で蔵見学と説明がありましたが、見学も説明もあつという間に終わり酒蔵二階の試飲コーナーへ、試飲会場では私たちを囲むように土産物がずらりと並んでおりました。そして「皆様には特別に金賞を獲ったお酒も試飲いただきました。」とのこと、「淡路島限定」とか妙に特別感や限定感を煽っていました。分かってはいるのですが、その煽りに乗せられてしまい皆様沢山お酒をお土産に購入されておりました。「まだ旅のはじめだよ。」と驚きの声も聞こえてきましたが、ここでしか買えないという限定感に後押しをされてしまいました。(オンラインストアで買える

商品も一部あるようですが)

買い物を終えて酒造を出発。バスは本日の主要観光地「うずしおクルーズ」へ。

小一時間ほどバスに揺られ出航十五分ほど前に到着。幹事様の素晴らしい計画のおかげでほぼ待ち時間なしで乗船できましたが、どうしても船は苦手という方がいらっしやりその方は残念ながら港で留守番となりました。

そして出航。船は目的地の大鳴門橋下へ向かいました。途中添乗員さんのアナウンスを聞きながら右へ左に景色を堪能しました。大変暖かい日だったこともあり海風を気持ちよく感じながら目的地に到着。大小様々のうずしおがたくさん出ていて中には竜巻のように渦を巻いた物もあったので皆さん食い入るように下を眺めておりました。うずしおを存分に見たところで帰港。約一時間の気持ち良いクルーズでした。



バスへ乗り込み本日の宿「あわかん」へ、このホテルは前の海で二十四時間釣りをし放題で釣れた魚を夕食に出してくれるそうです。墨水会にも釣り好きの方が多くいらっしやるので、皆さん釣りに夜の刺身に胸を膨らませてホテルへ向かったのですが、到着したのが宴会の一時前ということで皆さん部屋に荷物を置いて急いで大浴場へ向かうことに、釣りと夜の刺身は夢ときました。

入浴後、宴会開始。皆様地元の旬の食材を堪能しながら翌日の昼食のための情報収集など様々な話題に花を咲かせておりました。大変紳士的な宴会となりました。

宴会後は三々五々各自自由行動となり夜は更けていきました。翌朝日ノ出の眩しさに起こされて起床。皆様朝風呂や朝食を済ませる9時過ぎにホテルを出発となりました。いよいよ旅行の目的でもありません、未開の地徳島県へ上陸となります。

まず大塚国際美術館へ。こちらは世界の名画のレプリカ品が沢山の常設をされていて、あまり美術館へ行きなれない方でも馴染みやすい美術館でした。本場では中々近くで見られない名画と写真を撮ったり触れたりして楽しみました。約1時間の芸術鑑賞を楽しみバスで出発。バスに揺られ徳島駅へ到着、ここで自由昼食時間となりました。昨晚収集した情報を元に名物のラーメンや居酒屋へ向かい昼





食を堪能したようです。

昼食後早いもので、旅の終着点徳島空港へとバスで出発。空港で旅を名残惜しみながらお土産等を買ひ込み未開の地旅行は終了。墨水会一行は徳島空港より単立(すだち) っていきました。

二日間天候もよく温暖で良い旅行日和でした。海も穏やかでしたので渦潮もしっかりと見えて景色もとてもきれいでした。夜の星や朝見た日ノ出が印象に残りました。美術館ではムンクの「叫び」と写真が撮れたのが感動的でした。

一番は何事もなくみなさん無事に旅を満喫できたことが良かったと思います。しかし今回の旅行で皆様の会話や思い出話の中に、どことなく物足りなさや寂しさを感じ受けました。そんな楽しさの中にちよっぴり寂しさの感じる旅行だったと思います。

昌栄青和会だより

報告「NOST交流会」

昌栄青和会 (株) 平渡商店 平渡 芳嗣

2024年11月16日、17日に開催されました第4回NOST交流会(以下、NOST)についてご報告致します。

まず初めにNOST開催にあたって、東京鉄螺協同組合(以下、東鉄協組合)の本部及び事務局、そして組合員各社の皆様から多大なご支援・ご指導を賜ったことに厚く御礼申し上げます。また組合員各社の従業員の皆様、そのご家族の皆様からのご協力にも併せてお礼申し上げます。

さてNOSTとは、我々の業界団体へ将来参加する後継者や若手の為に立ち上げられたものです。それは予め業界の仲間を知り交流や親睦、知識や経験の積み上げをすることを願ったことでした。神奈川県鉄螺協同組合からNKKK情報交換会(N)、大阪府のネジ商社・直需商社の二世会として設立されたOS会(O)、東鉄協組合から昌栄青和会(S)並びに泰鉄会(T)が参加し頭文字のアルファベットから「NOST」と名付けられました。第1回は2012年に金沢で開催されました。

NOSTは4年ごとに開催されています。2020年に開催予定であった第3回は新型コロナウイルスのまん延により中止となったため、今回は2016年の第2回(開催地:熱海)から8年ぶりの開催となりました。各会から2人(計8名)の幹事が参加し開催に向けて協議をします。そのメンバーは今回の主幹事であるOS会から株式会社三笠・鉄螺の高橋聖志氏と藤本産業株式会社の藤本翔平氏、NKKK情報交換会から横浜鉄螺株式会社の筒井大輔氏と株式会社平塚イトウネジの伊藤健翔氏、泰鉄会から有有限会社岩楯鉄螺の岩楯淳氏と株式会社フカサワの深澤一正氏、昌栄青和会から株式会社杉山

商店の杉山真一氏と平渡の以上8名が務めました。

開催地は福岡県福岡市博多、会場はソラリア西鉄ホテル福岡7階「ルミナス」にて。集合時刻の前から多くの方が到着し懇談、さらに今回は愛知鋳螺商協同組合青年部（以下、愛鋳協青年部）の方がオプザーバーとして初参加となり総勢45名となりました。

司会の藤本幹事の進行で開会。まずはNKBK会の筒井大輔氏、OS会の高橋聖志氏、昌栄青和会の清水雄一氏（東京リベット有限会社）、泰鋳会の深澤一正氏の順で各会代表挨拶。各会の歴史や活動紹介、NOSTへの期待や二世会交流の意義などについて語られました。

そしてNKBK情報交換会幹事が企画担当をした講演会へと移行。講演に登壇された小俣智徳氏は有名YoutuberのHIKAKIN氏などが所属するUUUM株式会社（ウーム株式会社）で映像制作を担当され、有名芸能人のYoutubeチャンネルの立ち上げなどに携わっていらっしゃいます。SNSの活用、有益なコンテンツの作り方、効果的な情報発信についての3つのテーマを軸に講演されました。会社の魅力や業界・業種・業務の特徴をSNSで発信するための映像制作、映像制作にあたって意識すべき手間やコスト、強く目を引くコンテンツや狙うべきターゲットの検討方法など、限られた時間の中で幅広くお話されました。質疑応答では参加者から活発に質問が投げかけられ、小俣氏から一つ一つ丁寧な回答がなされました。

講演が終わり続いて懇親会場へ移動となりますが移動前に集合写真の撮影。撮影は取材にいられた有限会社金属産業新聞様と株式会社ファスニングジャーナル様にお願いました。

懇親会は研修会から引き続き藤本幹事の司会進行の下で8階「聖天」にて開催。NKBK情報交換会の小泉伸仁氏（株式会社富士鋳螺）による「NOST交流会の更なる発展を祈る」との言葉と乾杯発声で開会。美味しい料理とお酒を楽しみつつ、同席の参加者同士で挨拶・自己紹介・名刺交換なども交えての歓談となりました。打ち解けてきたところで愛鋳協青年部の土方一憲氏（株式会社金城螺子製作所）が青年部部长挨拶をされました。NOST開催と研修会・講演会成功への祝意、一度は解散したものの復活した青年部の歴史の紹介、今後も交流を図りたいとの希望を表明されました。懇親会



も大いに盛り上がりましたが、名残惜しくもお開きの時間となり昌栄青和会の高松秀明氏（株式会社高松商店）の三本締めにより閉会となりました。

幹事から懇親会二次会の案内がされ二次会の企画担当である泰鉦会幹事の誘導で会場移動を開始。会場は「ROOFTOP GARDEN BAGUS 福岡中洲」10階のテラスから中洲の夜景を見下ろせる綺麗なホールへの貸し切りです。二次会参加の43名は泰鉦会幹事と会員の方々による誘導で会場へ無事に到着しました。

司会である岩楯幹事の進行により真嶼耕治氏（マハナネジ株式会社）の乾杯発声で開会。盛り上げ上手のOS会幹事の進行によるビッグ大会が開催され、強運の方々が豪華景品を手に入れました。二次会の食事は大変美味しく懇親会に続き打ち解けた参加者はお酒もすすみましたが、あつという間に閉会の時間となつてしまいました。二次会はOS会の隅田裕貴氏（株式会社隅田鉄螺製作所）による「皆様の益々のご発展を祈念する」との発声と共に一丁締めで閉会となりました。幹事より翌日の博多見学の案内を通知し1日目の日程を終了しました。

2日目は10時に榊田神社前駅に集合し博多見学会（企画担当・昌栄青和会）を行いました。見学にあたり福岡市博多区市役所企画振興課内「博多ガイドの会」に解説を依頼。近年新設された「榊田神社前駅」には大変に心地よい暖かなデザインの地下通路があります。また展示室のようになっており、博多人形や水引、水法被のイラストなど名物や工芸品を鑑賞することができます。ガイドの方の解説に聞き、問いかけには寝起きの脳を働かせつつ博多の魅力を堪能しながら榊田神社まで移動。博多総鎮守榊田神社ではご神木の太銀杏や常設展示の飾り山笠を鑑賞、楼門や拜殿、土塀の解説などを聞き博多の歴史と文化を学びました。七五三の着物姿で元気に動き回子供たち、そして必死に写真を撮るご家族を横目にしながらの歴史文化勉強会となりました。

見学会終了後はガイドの会ご厚意で昼食会場「博多水炊き 濱田屋本店」まで先導頂き移動。OS会の垣内悠輔氏（有限会社ネットワーク社）の乾杯発声にて昼食会の開会。1日目で交流を深めた参加者は

2日目も盛り上がり、見学と博多名物水炊きを堪能する有意義な2日目となりました。最後は主幹事OS会の高橋聖志氏（株式会社三笠・鉄螺）の「各会の幹事と協力してNOST開催に至ったことへの感謝、参加各社の繁栄とNOSTと愛鉦協青年部がさらに交流することを祈念する」との言葉、続けて一丁締めで中締めとなり閉会となりました。名残を惜しみ多くの方が握手を交わして第4回NOST交流会は終了いたしました。

最後になりますが、共に今回の幹事としてご尽力いただいた7名の方に改めて感謝を申し上げます。特に主幹事であるOS会の高橋聖志氏と藤本翔平氏には深く感謝いたします。関東に集中する幹事との打合せの為に関東へ何度も来られたこと、実現の可否が不透明であった愛鉦協青年部の参加を取り纏めたこと、会場設営・運営の手配、金銭面全体の明確化・簡素化、無事に事故なく開催できたことなど、強いリーダーシップと細やかな配慮の下で幹事業務全体を牽引して頂きました。重ねて感謝を申し上げます。

また昌栄青和会から共に幹事として参加した杉山真一氏は他の幹事との連絡・情報の共有、資料の作成、外部関係者との折衝など多くの部分で尽力されました。さらに私の至らぬ点のフォローを何度もして頂き感謝の念に堪えません。本当にありがとうございます。改めましてご支援、ご協力、ご参加頂いた皆様におかれましては誠にありがとうございます。

多くの方への感謝を示したところで第4回NOST交流会の報告を終わります。
以上。



泰鉦会だより

泰鉦会 旅行記

泰鉦会 大栄工業(株) 大西 範彦

11月16日～17日にて、NOSTが開催され各会の親睦を深めつつ、「博多水たき 濱田屋本店」にてNOSTとしては最後の会食を楽しみ有意義な時間を過ごした後に解散となり、その熱気そのままに泰鉦会の旅行会がスタートしました。

解散後まず「福岡市博物館」へ向かい福岡の歴史やアジア諸国地域との文化交流や人々のくらしについて、展示物を通して学ぶことが出来ました。中でも、国宝 金印【漢委奴国王】の展示では、今まで教科書でしか見たことが無かったこともあり皆が興味を持って鑑賞していました。福岡は朝鮮半島に近いこともあり稲作や実りを願う祭事などが伝承され、その時に使われたであろう「やじり」や「土器」なども展示されており、それらの歴史のロマンを感じつつ熱心に前かがみで鑑賞されている深澤様の姿が非常に印象的でした。

その後、タクシーで「もつ鍋おおいし」に向かい夕食となりました。岩楯様からNOSTが無事に終えられたこと



への感謝のお言葉で乾杯し、博多名物のもつ鍋を堪能しました。行きタクシーの運転手さんがおおいしのもつ鍋が一番美味しいと言っていた通り、出汁、もつ、野菜全てが絶品でお酒が進み楽しい時間を過ごし、中村様の泰鉦会に対する熱い思いがこもった中締めのお言葉を頂戴しその日は解散となり、おのおの中州の夜へ。

翌日(旅行会最終日)は、ホテルを出て「大宰府天満宮」への観光へ向かいました。

途中に岩楯様の粋な計らいにより元号令和の由来となった「坂本神社」に寄り道し散策となりました。

(元号 令和の由来)

大宰府に赴任した大伴旅人が、「梅花の宴」を開いた。その時詠まれた梅花の歌三十二首の序文「初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす」から引用された。

岩楯様のご発案が無ければ通り過ぎていたところに名所があり、坂本神社を訪れることが出来て感謝しています。大宰府天満宮は多くの観光客や七五三や修学旅行と思われる学生さんが印象的で、私も我が子の学業成就を願ひ参拝させて頂きましたが、親の心子知らずとなつてしまわないようにお守りを買ひ、参拝したことを形にして子供に渡すことにしました。

大宰府天満宮を後にし、「割烹よし田」にて昼食となり、篠崎様からのNOSTや幹事の皆様への感謝の言葉にて乾杯し、会食が始まりました。いかの姿造りが美味しく、お酒も入り終始笑いの絶えない時間を過ごし、中締めへ。竹内様からは、単独でご見学された福岡での「ウエルシア」の商品流通や製品についての独自の見解などの話があり、最後まで知見を広める素晴らしい旅行会になったと思います。

福岡空港に向かいお土産を購入し帰路へ。

NOSTからの旅行会ということもあり、幹事の皆様はご苦労があったと思いますが、楽しい思い出ばかりの旅行となりました。皆様へ感謝申し上げます。有難う御座いました。

組合の会議から

◇九 月 十三日	理事会	午後六時 (東鉄会館)
◇十 月 二四日	流通経営委員会	午後六時 (東鉄会館)
◇十 月 八日	規格委員会	午後六時三〇分 (東鉄会館)
◇十 月 十七日	広報委員会	午後六時 (東鉄会館)
◇十 月 三〇日	総務委員会	午後六時 (東鉄会館)
◇十 一 月 五日	理事会	午後五時三〇分 (東鉄会館)
◇十 一 月 二六日	広報委員会	午後六時 (割烹とんぼ)
◇十 一 月 五日	総務委員会	午後六時 (アジャント)
◇十 一 月 九日	流通経営委員会	午後六時 (翠鳳)
◇十 一 月 十日	規格委員会	午後六時三〇分 (築地ふく竹本店)
◇十 一 月 十一日	福利厚生委員会	午後六時 (うなぎ久保田)
◇十 一 月 十八日	理事・監事会	午後六時 (東武ホテルレバント東京)

計 報

港支部 鈴木精工株式会社

代表取締役会長 鈴木 繁男 様

九月二四日に逝去されました
謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

墨田支部 株式会社佐竹製作所

前代表取締役社長 片倉 新治 様 (組合顧問)

一〇月二九日に逝去されました
謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

昌栄支部 株式会社高松商店
代表取締役 高松 秀夫 様
一月二一日に逝去されました
謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

◇東鉄ゴルフ会報告◇

本年度第3回(通算第162回)の泰鉄会合同コンペが9月19日に行われました。成績は左記のとおりです。

順位	氏 名
優勝	松本 浩
二位	小谷 彰宏
三位	野口 俊家
四位	竹田 弘二
五位	松島 徹
六位	時崎 雅広
七位	石川 隆一

本年度第4回(通算第163回)のコンペが11月28日に行われました。成績は左記のとおりです。

順位	氏 名
優勝	松本 浩
二位	小谷 彰宏
三位	洞下 泰成
四位	吉田賢一郎
五位	高野 信之
六位	山田 茂始
七位	新保 良孝

私の逸品

オプチマス8R

墨水支部 株式会社京葉ネジ 木村 勉

『自分の力だけで、どこまで行くことができるのか。』誰もが経験する自分探しの旅。私の場合、その旅の相棒が、今回紹介するオプチマス8Rである。

私はこれまで、サイクリング、釣り、キャンプ、山歩き、スキーなどに熱中してきた。それぞれの遊びの中に懐かしいシーンがあるが、そのシーンの片隅には、いつもオプチマス8Rがあった。

小学4年生のころ、従兄のお兄ちゃんが家に泊まりに来た。従兄の住む館林市は、当時は車で4時間も5時間もかかる場所だった。そこから市原市まで、何と自転車であつたと言ふのだ。(タテバヤシカラ、ジテンシヤデ……?) 近所を走り回る道具ぐらいにしか考えていなかった自転車で、こんなに遠くまで来ることができたのかと驚いたことを鮮明に覚えている。

中1のとある下校時、大きなラジカセをハンドルに乗せて走っている同級生を見かけた。まだウォークマンも世に広まる前で、音楽を聞きながら自転車に乗る方法として彼が考えた末にたどり着いた方法だったのだろう。シンプルかつ大胆な発想に、思わず呼び止めて自転車を見せてもらった。括り付けてあつたのは、パイオニアのランナウェイというラジカセ。自転車は、従兄のお兄ちゃんと同じ、ブリヂストンのロードマンだ。やがて、彼



や他の友人たちと、堤防釣りに行ったり、養老溪谷へサイクリングに行ったりするようになった。

高校生になると、ブリヂストンのユーラシアを手に入れた。ロードとキャンプの中間の、ランドナーだ。近所のホームセンターでテントやシュラフを買い、仲間たちと一泊のサイクリングに出かけるようになった。雨が降ると翌朝はシュラフまでグッシヨリというようなシロモノであつたが、気に入って使っていた。テント泊となると、炊事用の火が必要になってくる。そんな折、件の彼がどこからか情報を仕入れてきたのが、オプチマス8Rだった。彼が言うには、コンパクトで火力が強く、バーナーやタンクと一体のケースに収納することができ、自転車のバッグにパッキングしやすい、ということだった。小遣いを貯め、仲間たちと神田のニッピンまで、わざわざ自転車で買いに行った。

8Rを手に入れてからは、一気に行動範囲が広がった。県内はもとより、上高地や五色沼などへも足を延ばした。飯を炊くのも、レトルトのカレーを温めるのも、いつも8Rだった。コイツは、使用前に固形燃料で予熱を与える必要がある。このひと手間が煩わしくもあり、期待を高めてくれる時間でもある。プレヒートが済んでコックを捻った瞬間、ヴオーっという音とともに力強い炎が噴き出す。この音が、たまらなく好きだ。仲間とサイクリングに行くかたわら、ソロツーリングに出ることもあつた。自分探しの真最中だった高3の頃は、学校をサボっては日光に出かけた。早朝の湖面から湧き立つ水蒸気を眺めていると、当時の混んとした気持ちと相まって、不思議な感覚に引き込まれる。シエラカップで飲むコーヒーは、もちろん8Rでいれたものである。

私の自分探しの旅は、大学1年時の北海道へのソロツーリングで、一応の区切りがついた。8Rを自転車に積んで、自分の力だけで日本の最北端まで到達した達成感は、その後の人生における自信の源となつていくように思う。その後、移動手段は自転車から車に変わったが、出かける時はいつも8Rが一緒だった。妻が言うには、「勉強と聖岳に行った時、ちょっと待ってると言つて、寒い中でコーヒーをいれてくれたんだよ」というようなこともあつたらしい。しばらく8

R と出かけていないが、これからの人生もコイツと共に過ごしていきたいと思う。

追伸、今回の寄稿にあたり、写真を撮ろうと 8R を探したが、見つけることができなかった。どこかにあるはずだが、今回はメーカーの HP の写真でご容赦いただきたい。

情報室

情報ツールの多様化

広報委員 株式会社佐竹製作所 尾方 謙 一

我が社には、「〇〇通信」という管理部門が定期的に発行する社内報があります。各事業所の前月の出来事を配信し、情報を共有する目的ですが、残念ながら、最近ではあまり読まれなくなってしまいました。さらに、外国人社員の増加により、日本語の文章が読まれる機会はさらに減少しています。

最近では、新入社員の紹介についても、社内 SNS に画像やインタビュー形式で掲載する形が一般的になってきた。しかも、外国人社員の母国語に合わせて、4 か国語に翻訳できるように対応しています。手間は増えていますが、時代に沿った工夫が求められているのだと感じます。

ある記事には、「このままでは 2036 年には紙の新聞が消滅する……」と記されていました。実際、熱心な読者からも「質が落ちた」との苦言が出ており、残念ながら厳しい状況に陥っているようです。今では、朝の通勤時間帯ですら、電車内で紙の新聞を読んでいる人はほとんど見かけません。私も 10 年前に購読を止めましたし、ビジネスマンだけでなく、大学生のほとんども新聞を読んでいるのが現状です。

「デジタル新聞に移行しているのだから、紙の新聞が減るのは当然だ」と思う方もいるかもしれませんが、しかし、「有料」の電子新聞を

利用している学生はほとんどおらず、新聞という「言葉」やその媒体自体が衰退しているのは明らかです。今では、国を問わず若者の情報源は無料の SNS が主体ですし、多くのビジネスマンも無料の情報サイトで十分だと感じています。つまり、「新聞を買って読む」という行為自体が失われつつあるように見えます。

Yahoo ニュースや Google ニュースでも AI 技術を活用したパーソナライズが進んでおり、個々の関心に基づいたカスタマイズニュースフィードが提供されています。また、AI による自動記事生成も進化しています。速報性の高いニュースは、視聴者がスマホで撮影した動画が SNS で流れるケースも多く、誰もが事件や事故の映像をシェアし、ニュース制作に参加できる時代となりました。

しかしながら、我が社は今でも経営計画書を印刷・製本して社員に配布していますし、新卒採用時の会社案内や製品カタログの配布も「紙媒体」で行っています。この「手渡し」も、いわば昭和的な感覚であり、多くの皆さんは企業の Web サイトをチェックして済ませています。いずれは見直すべきかもしれません。弊社の子会社で、人材紹介サービス事業があります。若手社員しかいないので、採用面接や商談、サービス紹介もすべて動画やオンラインで完結しており、データのやりとりも Eメールですら「古い」と言われる始末です。日々の業務を通じ、情報伝達方法の変化を強く実感しています。

面倒な時代になったと思う一方で、この機会に、情報ツールの多様化と人材の多様化に合わせて、私自身も考え方を改めたいと思うようになってきました。皆さんの会社では如何でしょうか。

謹賀新年



令和七年 元旦

広報委員会一同